

## ①若者啓発イベント

### 「大切な人達との未来のために今“投票”について考えよう」を実施

2月10日(月)、11日(火・祝)に新宿高島屋にて若者啓発イベントを実施しました。ファッション誌「Sweet」(宝島社)とタイアップした配布リーフレットは、インパクトのある表紙のおかげもあり、約2,700名と想定より多くの方に受け取っていただきました。

また、政治意識に関するアンケート調査を模擬投票の形式で行ったところ、500名程度の方にご参加いただきました。「大切な人に政治や選挙に関心をもってもらうために、あなたなら何をしますか?」と問いかけたところ、「日頃から社会の出来事などを話す」との意見が多かった他、「デートの予定のひとつに投票に行くことを入れる」「大切な人と一緒に話し合えるよう、まず自分が十分な知識を得たい」等の意見が寄せられました。

通常の啓発グッズを配布するイベントと少し異なる雰囲気を実施できたため、足を止めていただけることも多く、多くの若者に政治や選挙について考えるきっかけを提供できたと思います。



## ②「SNSを使いこなせ！」レビュー資料を配布しました

昨年12月に実施した若者選挙ネットワーク支援事業「SNSを使いこなせ！」のレビュー資料を、ネットワーク加盟団体に配布しました。SNSに投稿する際のポイントを、当日学生が作成した投稿内容を使って、分かりやすく説明しています。別途提供もできますので、ご関心がありましたらお問い合わせください。

## ③情報誌「Voters No.54」を発行しました

今号の特集は「シルバー民主主義を考える」です。昭和女子大学グローバルビジネス学部長・特命教授の八代尚宏先生、法政大学経済学部教授の小黒一正先生、(公財)中部圏社会経済研究所研究部長の島澤諭先生、北海道大学法学研究科教授の吉田徹先生にご執筆いただきました。「世代格差」から世代間格差を、各種データから高齢者の優遇を検証することなどが論じられています。

また、埼玉大学社会調査研究センター長の松本正生先生からは、さいたま市内の高校生を対象に行った、過去3回の意識調査の結果をご寄稿いただいております。その他、連載「アメリカの主権者教育」・「デンマークにおける民主主義の実践」・「明るい選挙推進協議会こそ、会議上手になろう!」などを掲載しております。是非ご覧ください。

【問合せ先】(公財)明るい選挙推進協会 Tel: 03-6380-9891

## ④高知家のわかものカフェの実施(高知県選挙管理委員会)

2月11日に、県内外の高校生・大学生の他、ファシリテーター役として若者選挙啓発グループの協力の上、「高知家のわかものカフェ」と題したワークショップを実施しました。

当日は、「50年後の学校」をテーマに、班ごとに今通っている(通っていた)高校の良い点・残念な点、後輩に残したいこと・残したくないことを共有した後、

① 2070年に通いたい高校のキャッチフレーズ・生徒数・設備、② 生徒や資金を確保する方法について考え、全体に向けて発表。その後、良い点と残念な点を付箋に書き、ホワイトボードに貼り付ける形で、理由付けを含め「通いたい高校」を選ぶ投票を実施しました。

最も票を集めたのは「デザインできる学校」で、学校に導入する設備や学習内容を自分達で選択し、多様性を尊重する学校づくりが高く評価されました。また、全体を通して、様々な学校や年代の方と話して考え方の幅が広がった、政治を身近に感じた等のご感想をいただきました。

【参考URL】 <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/270101/2018112000120.html>



## ⑤主権者教育アドバイザー紹介 森井 道子(狛江市手をつなぐ親の会会長)

2月2日の出前授業(徳島県立鴨島支援学校)では、生徒、保護者が「障がいがある」ために投票に行くことに対して抱いている不安の解消と、投票支援についての講演ニーズがありました。

当日は保護者、教職員の方々と12名の中高生が参加され、①当事者と保護者(支援者)付きの投票体験、②保護者が選管の仕事体験、③実技の場面ごとの解説と課題の説明、④質疑応答といった流れで行いました。私からは、保護者に「その一票はお子様のもので」「お子様が考えた結果であれば、それは正しい選択です」、教職員に「意思決定支援」の重要性と卒後の学ぶ機会の脆弱なこと、皆さんへ「投票支援は決してスキルではない」「困難なところに支援を受けながら共に作り上げることであり、共生社会への扉でもあること」といった内容を特に意識してお伝えし、参加者から「自分も18歳になったら勇気を振り絞り投票に行きます。そして自分の意思を政治に反映させたい」、学校より「障がい者の投票についての認識を大きく改め、主権者という認識が明確になった」と頂戴しました。大切なのは障がい種別や重度軽度ではなく「必要な支援の見極めと適切なアプローチ」です。支援の背景には保護者と学校と選管の緊密な連携が必須であるということを感じました。



## 主権者教育だよりへの情報掲載について

主権者教育だよりでは、主権者教育や選挙啓発に関する総務省や各選管などの取組みを広く情報発信しています。自分たちの取組みやイベントを紹介してほしいという希望にも可能な限りお応えしますので、是非ご連絡ください。なお、配信は毎月月末を予定しています。

【問合せ先】総務省自治行政局選挙部管理課選挙啓発係 内山・堀籠・磯部 Tel: 03-5253-5574 FAX: 03-5253-5575